

2007年版の Excel に追加された新しい関数 Subtotal の紹介

	A	B	C	D	E
1					
2		品名	単価	個数	金額
3		バナナ	100	10	1,000
4		リンゴ	198	5	990
5		桃	298	5	1,490
6		マスカット	398	5	1,990
7		果物小計			5,470
8		歯磨き粉	298	1	298
9		入浴剤	500	1	500
10		石鹸	300	1	300
11		シャンプー	500	1	500
12		リンス	500	1	500
13		日用品小計			2,098
14		餃子	300	2	600
15		唐揚げ	300	2	600
16		春巻き	300	2	600
17		焼きそば	500	1	500
18		炒飯	500	1	500
19		食費小計			2,800
20		出費合計			10,368
21					

左の計算式の場合

果物小計は $=\text{Sum}(E3:E6)$ と入力して果物小計を求めています。

同様に

日用品小計も $=\text{Sum}(E8:E12)$

食費小計も $=\text{Sum}(E14:E18)$

と合計範囲指定をして求めています。

では最終欄の

出費合計は $=E7+E13+E19$

または $=\text{Sumif}(B3:B19,"*小計",E3:E19)$ として求めています。

Subtotal関数を利用すると、 $=\text{Subtotal}(9, E3:E19)$ で“出費合計”の計算ができます。

Subtotal関数の構文は、**Subtotal(集計方法,範囲 1,[範囲 2],...)**となっています。

1番目の引数は「集計方法」です。この引数は必須です。集計に使用する方法を1～11の番号で指定します。番号ごとにどんな集計ができるかを下記の表でまとめています。目的の集計方法の番号を指定します。

集計の目的	集計方法 (非表示の値も含める)	集計方法 (非表示の値を無視する)	同等の集計関数
平均値を求める	1	101	AVERAGE
数値の個数を求める	2	102	COUNT
データの個数を求める	3	103	COUNTA
最大値を求める	4	104	MAX
最小値を求める	5	105	MIN
積を求める	6	106	PRODUCT
不偏標準偏差を求める	7	107	STDEV
標本標準偏差を求める	8	108	STDEVP
合計値を求める	9	109	SUM
不偏分散を求める	10	110	VAR
標本分散を求める	11	111	VARP

非表示の値を含めるか、含めないかで番号が異なります。非表示の値を含める場合は「1～11」、含めない場合は「101～111」を指定します。

オートフィルターで絞り込んだ抽出結果に関しては「1～11」「101～111」どちらを指定しても結果は同一になります。あくまで手動で行を非表示にした場合に結果が異なってきます。

subtotalを利用するには

小計と合計にSubtotal関数を使う必要があります。

	A	B	C	D	E
1					
2		品名	単価	個数	金額
3		バナナ	100	10	1,000
4		リンゴ	198	5	990
5		桃	298	5	1,490
6		マスクット	398	5	1,990
7		果物小計			5,470
8		歯磨き粉	298	1	298
9		入浴剤	500	1	500
10		石鹸	300	1	300
11		シャンプー	500	1	500
12		リンス	500	1	500
13		日用品小計			2,098
14		餃子	300	2	600
15		唐揚げ	300	2	600
16		春巻き	300	2	600
17		焼きそば	500	1	500
18		炒飯	500	1	500
19		食費小計			2,800
20		出費合計			10,368
21					

← =Subtotal(9, E3:E6)

← =Subtotal(9, E8:E12)

← =Subtotal(9, E14:E18)

← =Subtotal(9, E3:E18)

訂正

=Subtotal(9, E3:E19)